沖縄戦について

古堅中学校　三年六組　比嘉　美月

今から七十三年前。私達が住んでいる、この、沖縄で、とても悲惨な地上戦が起こりました。特に読谷村は、海岸から米軍が上陸し、多くの民間人が巻き込まれました。

平和集会で青山礼子さんの話を聞きました。読谷村には、集団自決が起こ。たチビチリガマと、全員が助かったシムクガマの対照的な二つのガマがありますが、それぞれの考え方の柔軟性でこんなにも結果が変わってしまうということを知りました。また、青山さんがおっしゃっていた「弱い者が犠牲者になる」という言葉は、とても深いなと思いました。老人や子供、女性などという、体力的に厳しいということだけではなく、すぐにあきらめてしまうという精神的な面のことなのかと考えました。しかしそれは、戦争について何も知らない人が言えることであって、実際にその時の苦しんでいる方々の気持ちを考えると

とても精神的にぼろぼろで強い人はいないと思います。アメリカ兵に殺されるのなら自分達の手で死んだ方が良いと考える気持ちも分かる気がします。そして、青山さんは、「生き残った人も辛い思いを沢山している」ともおっしゃっていました。遺族の方に責められたり生きていることへの罪悪感があったりと苦しんで、精神的な病を抱えて自ら命を絶つ人も少なくなかったそうです。本当に辛かったと思います。この悲惨な沖縄戦は約三か月におよび、二十万人以上の戦没者が出ました。それ以外にも、壕の中や収容所で生まれ名もつけられずに亡くなった赤ちゃんや一家全滅のために戸籍簿に記録されない人などを合わせると、公式記録の戦死者はもっと多くなります。県民に四人に一人が戦死したといわれています。男子中学生は通信隊に、女学生は看護要員など、私達と同じくらいの年の子供達も仕事をさせられたそうです。今ではとても考えられないような状況が目にうかんでき

す。

今まで、沖縄戦について学んできて、私達にできることを考える機会が多くありましたが、私達にできることは大きく二つほどあると思います。まず一つは、この悲惨な沖縄戦のことを未来に語り継いでいくということです。沖縄戦について一人でも多くの人が知って二度とこのようなことが起こらないようにしたいです。二つ目は、お互いに理解し、尊重し合って、人を信じるということです。これからは私達が世の中をつくりあげていくことになるでしょう。その時に、互いに理解をして尊重し合えば、争いごとも少なくなると思います。もう一つ、私がやりたいと思っていることがあります。私は、景色を眺めることが大好きです。落ち込んでいる時や元気がない時に、いつも、青い空や青い海を見て元気をもらっています。同時に、とても平和な気持ちになって心が落ち着きます。なので、ずっとこの青い空や青い海を守り続けていき

たいです。黒い空や黒い海を見たくない。き
っと私みたいに思っている人もいると思いま
す。社会科の授業で「頑張って生き残った方
々のおかげで今、私達はここにいるんだ」と
先生がおっしゃっていた言葉を絶対に忘れな
いでおきたいです。そして、先祖から受け継
がれてきた大切な命。自殺なんてしないで、
辛いことがあっても、頑張って生きていきた
いです。もう二度と、このようなことが起こ
らないように、私達の手で平和を守り続けて
いきます。